

見ふ磨々有はして及て一尾の鮑魚あり沢の中ら人乃道  
 路ふありは磨鮑魚と變はるる事と怪く大いふ神あり  
 思へて轉相告て人ふ語る此鮑魚ふ病をり福と禱ふ多  
 く効驗あり此事世ふ語る人皆奇特の思ふ  
 以是よりて祠として衆位の巫祝數十人幕をり鐘  
 鼓をあり歌舞以四方百里より皆来りて禱り祀ふ  
 びくりふ夏かゝ鮑君神と号く其后數年ありて鮑魚  
 の主未だ〜此事と聞て是我魚あり何ぞ神ありんやや  
 竟ふ祠ふ入て鮑魚とてりて飯をり是より後此事取意  
 是より相似る物語あり

○川村瑞軒

瑞軒より右衛門と呼後ふ瑞軒と改む魚ら車力  
 あり東武の産神田浅草芝あり住て初ら住處定ら  
 ざり〜若き頃の家ゆく〜一時京撮ふゆきて活業を  
 做〜〜旅立せり路費乏〜〜行事あり大井川  
 の邊より轉回〜〜の懷裡ふ〜の路費もあ〜路上人の  
 食〜〜捨る西庇の皮あ〜といひ食ひて食〜ある畑の  
 あり〜ふ切捨る瓜加子とひらひて食幸〜と命とつ  
 あり江戸ふ飯を品川宿ふ知己の家の主人過てらる仔細  
 あり裏町とてりて塵芥場の中より人の捨る舌き



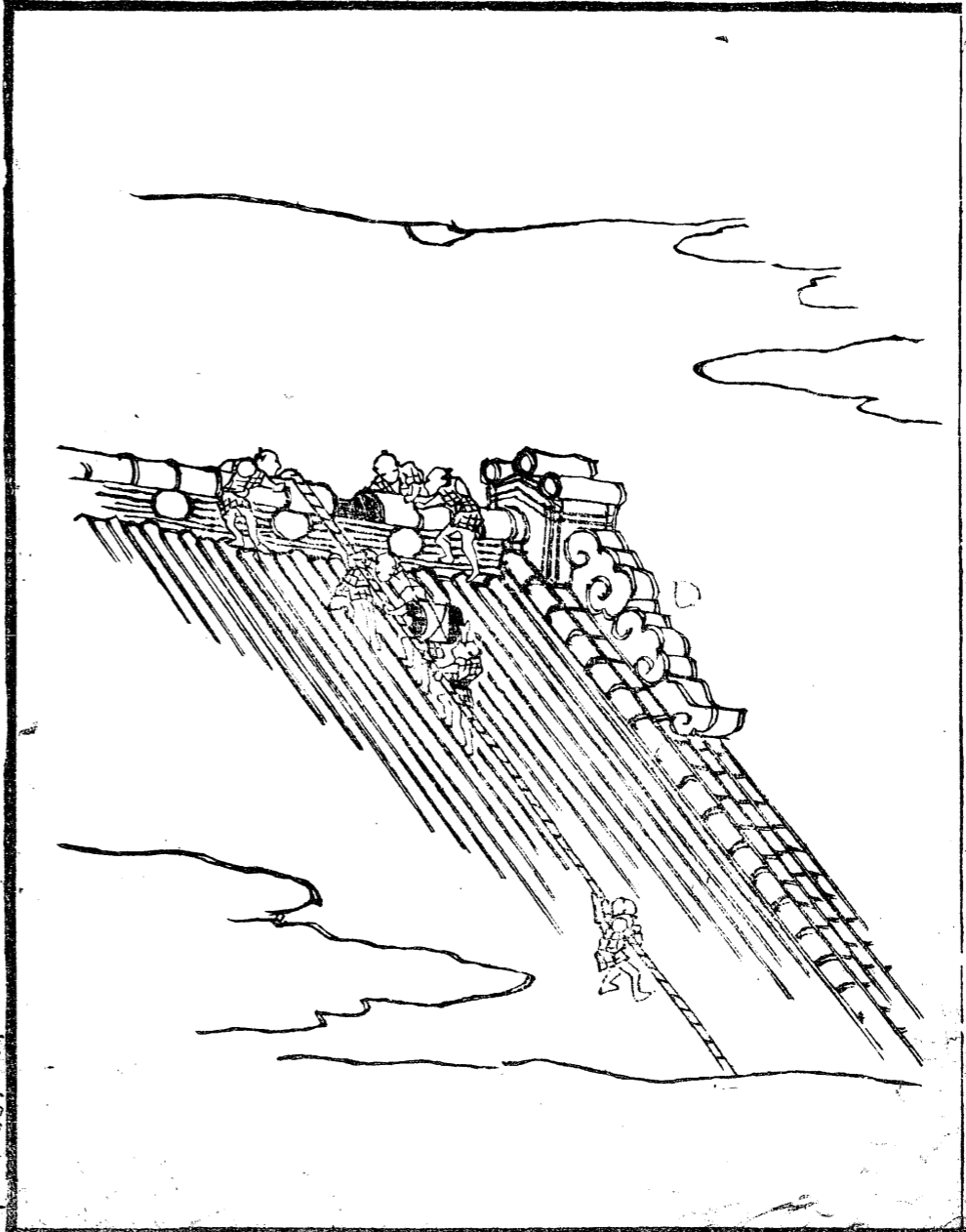
雪踏のわづらぶの腐る如れもの二三足着者づら此  
 皮をとりて川の中にて能洗ひ路傍の垣下のうちを細き  
 竹と四五やん抜らうめの皮と三角ふ切く結びつけ蠅拂子  
 とする物とらうら然して路上かきの蠅とくさ皮の蠅と  
 くと呼て賣あるれくらの江戸らさびがふ鱈巻の地と  
 忽ち是と買もの有て當日夕暮み残らば賣きりた  
 百餘孔の銭と得てあやしく命とつたれく次の日より  
 往來の人たを捨くる草鞋あつち馬の鞋あど多く拾ひ  
 あつち川の中へ漫らばれ土とより洗ひかけ泥土のつ  
 ふす蒔とりる物ふ刺し泥匠の家ふりて行て賣くたにえ

やうりうふて守寸茨も猶勝こころうをど這職の人々嬉ん  
て是とゆゑも是より十ゑりんが寸茨として諸方より来れ  
未だ大いふ流行りたるうをどやうり事かぬ身と成ふか  
曆三年火災おくる十右衛門是と看て這火あり急ふ  
鎮るべうりばと立地ひし思案をめぐり有合せの僅の  
金を懐中や我家を棄ゆれて夜と日不繼て木曾山へ  
りりり材木おあ積りの熊頭領が家入て是より江戸  
材木屋あり木口買入ふ未だ待て云々主人喜び奥  
請い山茶あや煎てりてありりの這家の庭ふ六七歳なるの  
幼童あもび居る十右衛門懐中より圓金一枚とり出し火籠

うく孔とあけ紙撚を通し輪ふむび彼幼童ふあふれ  
が懼びあもをりり旗びやうり這家の妻あもび看者ぞ  
られ是よりうり拾ひ来りてと問子より答て江戸  
の御客ふりりひしり妻聞て夫ふ告る主人聞て大いふ  
驚き奈何江戸人あもぶと斯る貨を童の玩具ふや  
この寔ふ大器の大檀那ありし夫よりゆり奔走してひ  
とひりり接待りり十五りん是より這ふつ置る材木  
のりりあ買りりる誓住とあり材木ふ逐一鉄印とる  
早速ふりりり給る銀子の著の日引ふわすす人  
此あもいり當座の紡住ありりて圓金五兩と與へ竟る

とくく飯りくろ五六日を経て江戸大火のよう〜うておひ  
おひ村木の住文のいま〜も残らば十五りん方へ賣  
極〜とむりう〜詮方あり皆十五りん方へ積下〜る  
十五りん方江戸飯り我家を焼て灰塵とあり〜と  
いも急山下僕兩人を抱へ〜待受〜り程かく木曾の材木  
茂り〜着〜る大火後〜る材木一根もあは時な  
と〜殊の外價も〜僅兩三日の間は若干の材木との〜  
おく賣尽し木曾へも價との〜び違與との躬も毀〜黄  
金をやうけ是より大の家富り然〜て後ハ家居も  
美〜造り立諸家〜人立入〜て奥向の普請お〜請

肩〜るが他の人より〜價の〜美麗な造立〜おひ  
ろろ〜都て諸家の造營ら這者〜てん恨ぬや〜云  
お〜天和の頃より瑞軒と改名は一時三縁山増上  
寺の本坊の棟瓦い〜つ落〜り家頭匠ふ命〜て修補せん  
とせ〜處ハ家頭ユ〜足代のか〜り人夫數十人日  
數〜日と殊の外高金〜つ〜書〜と出〜る〜  
の人を〜聞〜て〜る〜瓦一片お〜と修補んふ餘り高料の  
か〜ありと各々〜家頭匠の云〜棟瓦一片お〜も  
十片落〜も同〜斯山の如き高家根お〜足代を  
揚〜太甚日數〜侍〜る外々の家根匠問〜



百家四十一

斯のていへる言ふほど詮方かく是も極んといふるが且瑞軒  
 小問て見べしや頭て川村とよひて這事と語れば瑞軒  
 て然るなりは事心易き幹あり明日つゝ候ひ侍りんと云く  
 候りたり次の日瑞軒紙七枚つれの用とていへ持来り本  
 坊の前より空もく昇せ本坊の家根と越ゆれりや中  
 糸とよくくういづゝくもバ用もかのびうり下りて其  
 尾繩ととりて本坊の後邊へ杜おろし用と切り糸のうれへ  
 太き大綱と結びつけ本坊の前よりいき手撮せられかの大綱  
 本坊の大家頭の上と越て前よりつゝ時堂の前より後より夫  
 地ふ大いある杭と打て這大綱前後とも杭ふあつと結び

とも本坊の簷さぐの梯木さぐのかり夫より上へのの大綱ふ  
 まかりて棟瓦を葺つてやして屋頭まぐの柱あげ魚の處ふ  
 正一居泥工素土として是と補ひ終り夕暮ふつて大  
 綱とて柱とて杭とぬきく元の如くかゝり役人別辞  
 とつげく飯りたり人夫々泥工瑞軒もも五人あり皆人  
 其却妙の才と感づり次の年まゝ増上寺の鐘樓の架  
 鉄ききく鐘地ふみちり鍛治ふ命とて架鉄とての  
 ひくまじりも鐘と此架鉄ふひれ蒐人幸太甚手おりの是亦  
 四方ふ是代とめり許多の人夫と費し數日とうまじり巴社  
 揚めぬるも棟梁やうの斯ても若干の費用かゝるべし然

むすく瑞軒ふ史むべし頓て這度と云あつりくまじり  
 瑞軒閣て領養さつて明後日柱あげ侍りんと答りて飯  
 しくり斯く瑞軒即日二三人の人とやとい増上寺門前の  
 市街とをせつるや有とある米店ふ入り悉く云せつる増上  
 寺まじり意ふ要用の支ありて米數万俵買り給ふ白米玄米  
 の差別あり幾俵もも持合せるとい明午時まじり山内へ  
 ともびまると云く門前の米買どもよれ高  
 ひとゆひくまじり次の朝まじり玄米白米車ふつて山内  
 へ曳入来る事おびく瑞軒指揮して俵毎ふあつり  
 つけ這米と残らば鐘樓の廻りに置き價ら明夕受とつれ



望ら官名と号しれものふく侍と言上々も上苑を給  
ひ夫ら安き事あり以未兵部郷とのふべしとて  
文字より書事収り假名より書用ふべしと命ありたるを  
瑞軒とて考て大いふ笑ひ是れとけおれ仕合ふさう  
と御請とよりして退れり假名よりひよりふきやう  
といひ「ひより」日雇 奉行と云事ありべし瑞軒が物語かか  
るもどもあはれ畧に

○森島中良

中良と東武築地に住し名醫桂川何の弟あり俗称  
森島万藏字と中良別号森羅字とよび平賀漁舟の門人

よして学才もつとも高く能蘭学に通じ著はしきもの  
書數十部あり又謂万国新話紅毛雜話地球全圖その外  
くくくの書ありつづも皆海外要用の物あり常ふ人ふ  
諷りば高慢び人ふ會ともる唯戲言とて事と狂奇師真  
顔が象ふ来り時真顔が曰く這りどろえし見え侍は  
奈何せうせ給ひしとや云くも中良曰く這りぬ南國  
呂川名の雄女ふかやと彼方ふの通ひ續けられ故に  
訪よりせざりしあり僅兩月なりふ二箱かや費し侍ふ  
といひく真顔大いふゆら夫へ殊ふ大金を費し  
然あり最無礼あるやうしやうお色どもさうと高金







居るる天明末の〜大柄言何〜の御下向〜  
 々々御門人あまふ山寄景貫もぬ目見へ命つけられ玉  
 觴あぢ給りて後卿のゆせあり々々の景貫もあはれ程  
 狂詠とありて〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜  
 一首詠〜〜〜命ありて天〜〜〜題と給〜〜〜菅江  
 か〜〜〜あが〜取敢ば  
 心あらまぬものか〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜  
 と詠て奉〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜  
 賞あり〜〜〜菅江の狂哥も風調〜び〜〜〜世上的の〜  
 狂哥〜〜〜代〜〜〜菅江つ〜〜丸の〜字と平〜書